

目標

■研究活動（フェーズⅡ：総括）

- ①本学スポーツクラブの活動によって得られた子どもの運動技能を向上させる指導プログラムの成果を総括する。
- ②女性スポーツの振興に必要な環境のあり方の総括を行う。
- ③スポーツ行政施策の実現の評価と総括を行い、スポーツマスタープランを策定する。
- ④若年者の体力・運動能力を向上させるスポーツ・運動指導システムの確立とコンディショニング法の普及を行う。
- ⑤運動指導アドバイザーによる啓発活動および体力測定機会整備の総括と下肢筋力改善プログラムの効果検証を行う。
- ⑥障がい者と地域住民、学生によるスポーツ・運動を主とした「居場所」活動プログラムを提案する。

■ブランディング戦略【ブランディングの認知強化（信頼）】

本研究事業を通じて、地域のスポーツ・健康づくりに寄与する成果を、ステークホルダーに情報発信し、天理大学＝スポーツのブランドイメージの定着強化を図る。すべての人が、いつでも、どこでも、誰でも楽しめる社会の実現に取り組む大学であることを宣言し、事業終了後も継続した取り組みを行うアピールとする。

実施計画

■研究活動

【地域スポーツ研究チーム】

- ①大学に設立したスポーツクラブでの運動指導の成果をまとめ、子どもの時期に行っておくべき身体の動きを明らかにし、スポーツや運動指導に役立つIT活用システムの成果を総括する。
- ②女性のスポーツ・運動実施率を向上させられるスポーツ教室や市内ウォーキング・ランニングマップの活用度を調査する。女子児童・生徒のスポーツ・運動実施率向上に繋がる成果を天理市内の各学校に配布して活用につなげる。
- ③天理市スポーツ振興基本計画の策定、天理市民を対象とした住民調査による「する」「観る」「支える」に対する参加状況・住民意識の変化を検証する。

【健康づくり研究チーム】

- ④児童や生徒のトレーニングによるコンディショニング悪化やスポーツ障害発症を食い止めるため、若年者を対象としたスポーツコンディショニング法の開発とその応用を行い、受傷等によるスポーツ・運動参加へのネガティブ要因を除去する検討を行う。
- ⑤運動指導アドバイザーによる運動介入が住民の運動習慣化に繋がったか調査し、一定期間の指導による習慣化の可能性を総括する。また、前年度に続き、活動筋の自覚的疲労感を強度指標とした運動の頻度や期間を変更して、より効果的な手法を検討する。
- ⑥前年度までの成果を踏まえ、障がい者と地域住民、学生らによるスポーツ・運動を主とした「居場所」活動プログラムを確立する。

■ブランディング戦略

本事業で目標に掲げたKPIの達成に向けて、各ステークホルダーの認知度を調査して、認知強化に繋がるような広報活動を引き続き行う。

■目標達成度の測定方法

本事業の目標達成度は、ステークホルダーへのアンケート調査からKPI達成状況を測定する。本学の認知度は、HPアクセス件数、オープンキャンパス参加者や保護者へのアンケート調査、志願者数の増加で測定する。